



照明探偵団通信

照明探偵団機関誌 第00号 1997年6月

発行日 = 平成9年6月20日 発行人 = 面出薫 編集 = 木下史青 田中裕美子

照明探偵団・事務局 〒150 東京都渋谷区神宮前 5-28-10

ライティングプランナーズアソシエーツ内 (菊西玲子・木下史青)

TEL : 03-5469-1022 FAX : 03-5469-1023

e-mail = lpa@lighting.co.jp http://www.lighting.co.jp

目次

巻頭言・胎動期の探偵団を終えて	面出 薫	・・・1
1997年度探偵団活動計画について	葛西 玲子	・・・1
特集/照明探偵団・銀座に現る		・・・2
「照明探偵団・銀座に現る」展の企画・構成について	東海林 弘靖	・・・2
照明デザインに照明を当てた展覧会	山本 雅也	・・・3
銀座ミニツアー／トークセッション	稲葉 裕	・・・4
A.T.E.metaTOKYO Project + 照明探偵団	葛西 玲子	・・・4
探偵団イベントカレンダー		・・・5
照明探偵団ホームページ	澤田 隆一	・・・8
海外照明探偵団 ランドスケープデザイン	中村 達基	・・・8
探偵団日記	木下 史青	・・・8
編集後記	編集部	・・・8

巻頭言

胎動期の探偵団を終えて

「ショウメイタンテイダン」と言う発音が持つあやしい雰囲気、段々と市民権を得てきた様子です。発足以来7年間の地道な活動が、雑誌やマスメディアの協力のお陰もあって、「世の中には色々な奴がいる」という理解のされ方がされてきました。良いことが悪いことか解りませんが、照明探偵団はけっこう有名になりつつあるのです。

1990年に発足以来昨年までは、胎動期と呼ぶにふさわしい活動をしてきました。初めは仲間内の(LPA社内の)照明デザイナー達が街に出て、自分の目を使って光の事件を探して回りました。フィールドサーベイによるたくさんの観察結果が「照明探偵団・SD別冊23号」として出版されたのは1993年です。なかなか気持ちの入った良い本ができたのですが、いかにも専門家向けの雑誌の中の出来事でした。その後、色々な方から照明探偵団への興味が寄せられ、デザイナー仲間のオタッキーな話題だけに留めておくことができなくなりました。そこで色々画策し、95年から96年にかけては疲れ知らずの連続実践講座や夜景

ウォッチングツアーなど、市民参加型の開かれたイベント目指して動いてみたのでした。毎月を本気でイベントづくめにするのは大変な気力と労力のいることでした。お陰でたくさんの仲間と出会いました。照明探偵団の胎動期を終えて今年からは、もっと内容の伴った充実した活動にしていかなければなりません。90-93年(SD・照明探偵団の発刊まで)が第一期、94-96年(連続実践講座・市民運動)までが第2期とすると、97-99年までは第3期(全国・全世界へのネットワークづくり)と言うような位置づけでしょうか。私たちの事務局の方には「照明探偵団の支部を勝手に作りたい」と言うような積極的な声も届いています。また、インターネットにのせて地球の反対側にまで、ここ日本で起こっている光の事件をリアルタイムで知らせるようになりました。これからは自発的な意見が交錯しながら探偵活動が双方向で盛り上がりつつあると願っています。照明が技術だけでなく文化としての話題になりつつあります。光の害や犯罪がもっと新聞沙汰にもなることでしょう。ますます

夜の12時間が大切になりますし、これまで見たこともない新しい光に出会うことになるのです。時代は確実に照明を進化させ、照明に新しい役割を求めます。照明探偵団という文化ゲームの輪が、全世界の仲間とリンクする日も、そう遠くないような気がしてきました。

(面出薫・L.P.A.)

1997年度照明探偵団活動計画について

97年後半も照明探偵団は引き続き連続実践講座、夜景ウォッチングツアーなどのレクチャー/イベントを開催いたします。また、会報を発刊し、全国に散らばる照明探偵団員の各地域での活動報告を含めて、活発な意見交換/情報提供の場を作っていきます。今年中には、照明探偵団の6年にわたる活動軌跡を綴った本が出版される予定です。

(葛西玲子・L.P.A.)

特集／照明探偵団・銀座に現る

1997年3月6日(木)～4月2日(火・祝) TEPCO 銀座館

「照明探偵団・銀座に現る」展の企画・構成について

すべての照明探偵団の企画は、面出薫団長を核とする7名のメンバーが定期的に行う会議によって決定されています。僕たちは、この会議のことをコンソーシアム会議と呼んでいるのですが、その名前のかっこ良さとは裏腹に、結構さまざまな意見がぶつかりあう熱い会議なのです。その会議で、今年の初めころ「照明探偵団展」を開催するという議題が討議された時、それは、随分と簡単なパネル展の概要でした。何事も「大袈裟に」感動したり、「大袈裟に」騒いだりするの大好きな僕たちは、この展示会を照明探偵団らしい工夫に満ちた楽しい騒ぎにしたいと考えました。幸い、TEPCO 銀座館さんのご理解と協賛会社のバックアップが得られて、この「大袈裟な騒ぎ」が実現したというわけです。

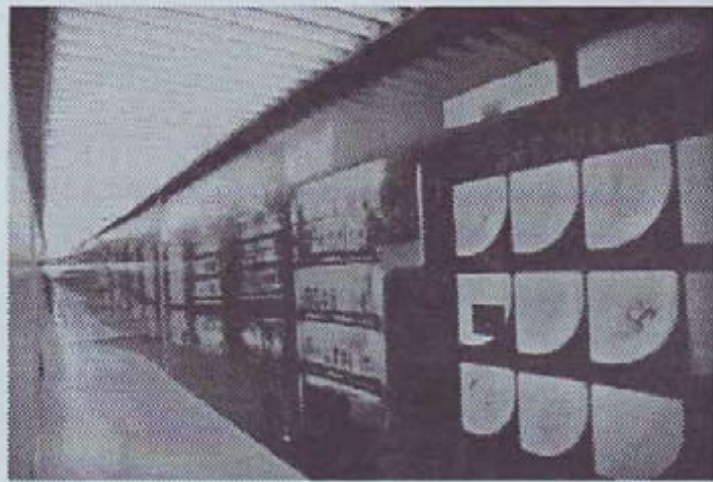
考えてみれば、光との出会いはそのほとんどが究めて個人的な体験です。主観的な感動を第三者に伝えるためには、その光の現象を「捕獲」しただけでは、十分とは言えないでしょう。その時「お腹がすいていた」とか、「足が痛かった」とか、あるいは「涙がこぼれそうだった」とか・・・体験者のそのときの気分までも生々しく伝えることが必要だろうと考えました。展示計画は、そんな「生きの良い」光を伝えるために様々な工夫を施してみました。第一のコーナーでは、直径3センチの穴を覗き込むことによって、照明探偵団員が心に刻み付けた光の景色が「果てしなく」広がるという



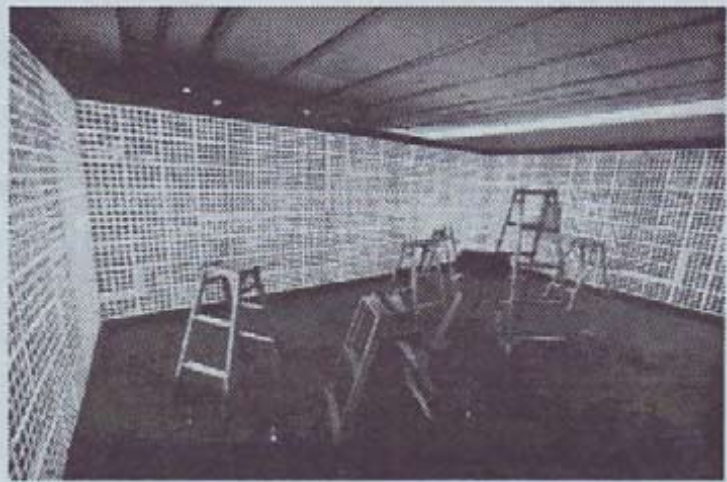
展示を考えました。覗き込むという、ちょっと下品でわくわくする遊びとその中で展開する万華鏡を応用した写真パネルは、大好評を博したようです。そのほかに、「街のなかの光ものたち」のコーナーでは、信号機や自動販売機、工事用パイロンといった光を発する「非照明器具」の現物を展示し、なおかつこれらの光たちが光の交響曲を奏でるというもの、そして「超グレア体験ゾーン」では、蛍光灯57本を使って1万ルクスの空間を体験し、最後は、「7000枚のスライド壁」と続きます。これは、高さ2メートル長さ15メートルの光壁に

本物のスライドを分類し展示しました。ひとつひとつ手作りで行ったこの展示会は、僕たちが「大袈裟に」騒いでいる分、より多くのメッセージを伝えることが出来たように思います。

(東海林弘靖・L.P.A.)



超グレア体験ゾーン



7000枚のスライド壁

照明デザインに照明を当てた展覧会

デザイナーの隣人から

久しぶりに「デザイン業界と直接縁のない一般の人」にも、「ぜひ、行って見てごらん」と薦められる展覧会を見た。3月6日～4月29日まで、TEPCO 銀座館で開かれた「照明探偵団」展である。照明探偵団とは、照明デザイナーの面出薫さんが中心となって、1990年に結成した任意団体だ。建築照明や都市環境照明を中心に、多くの照明デザインを手がけてきた面出さんが、「ビジネス抜きで都市照明の在り方を考え直す必要を感じて」作った研究会である。都市のあちこちに無計画に増え続ける自動販売機の明かりや、強力な白い光を発するコンビニエンスストアといった、公害ならぬ「光害」を指摘するなど、独自の視点が注目を集めてきた。活動当初は、仲間の照明デザイナーとの調査、研究活動が中心だったが、次第に「一般の人にも、照明デザインについて理解してもらおう」という活動に力点を置くようになる。95年末からは、「あなたも照明探偵団！」と題した連続講座を毎月行い、広く受講を呼びかけた。作家やアーティストなど、建築以外の分野の人もゲストに迎え、技術面だけでなく、生活文化の側面から照明デザインを論じた。希望者を募っての「夜景ウォッチング」や、投光器を持って街の任意の場所を照らす「ライトアップゲリラ」なども企画。講座には、老若男女さまざまな人が、毎回、150～200人も詰めかけたという。そうした活動

成果をまとめたのが、今回の「照明探偵団」展である。

私がこの展覧会に爽やかさを感じたのは、「一般の人にも興味を持てる工夫、理解できる工夫をこらしてある」という点に尽きる。そもそも、照明探偵団の活動そのものが、そうした仕掛けに満ちている。ネーミングは、藤森照信さん[東大教授]の建築探偵にヒントを得たものだが、講座への参加者には「団員証」を発行し、「あなたも照明探偵団に入ろう！」と呼びかける。「七つ道具を持って、夜景の調査に出かけよう！」「投光器を持って、街を照らすゲリラになろう！」と誘われたら、誰だってワクワクするではないか。そうした、「ワクワクしながら理解してしまう」という工夫が、展覧会の随所にも散りばめられていたのだ。たとえば、「照明探偵コンセプト」のコーナー。パネルやスライドだけでも説明はつくが、このコーナーでは、一辺が30センチの立方体の箱の中に、コンセプトが人目でわかる視角表現をおさめた。来場者は、その箱の中を、小さな覗き穴から覗くという仕掛けである。「覗く」という行為は、秘密を垣間見るような、人間が「やりたくなる行為」だ。その心理をうまく利用し、コンセプトを「見る気にさせてしまう」のである。箱の一つ一つにつけられたタイトルも気がきいている。「ついてよかった」というタイトルの箱を覗けば、そこにはコンビニの強力な光があ

り、『世紀末の辻行灯』という箱を覗けば、そのこは煌々と明かりを灯した、不夜城のオフィスが見えるという具合だ。こうした絶妙なタイトルは、「照明探偵団の七つ道具」の紹介コーナーにも生きている。「光を測る [照度計]」「メモる [B6カード]」「確かめる [高さ測定器]」「あかす [身分証明書]」など、その道具が何のために必要か、すぐにわかるタイトルだ。そして、忘れてはならないのが、入り口で配られていた「会場案内マップ」。このマップは単なる会場地図ではなく、各コーナーが「どんな意味を持つ展示なのか」を、わかりやすく説明している。

きっと「照明探偵団」展を訪れた人たちは、「照明デザインという仕事があること」を理解し、「都市照明の問題点」に興味を持って帰ったことだろう。それは、この展示を企画した側が、「一般の人は知らない」ことを前提に、「知らない人が興味を持ち、理解できるように」という工夫を、会場のすみずみまでこらしたからだ。デザイン関連の展覧会で、こうした配慮がなわれているものは、意外と少ない。以前、このコラムで行ったアンケートが示すように、「一般の人は、デザインと言えばファッションしか思いつかない」という現実を忘れてはならないと思う。展覧会の手法如何によっては、デザイナーという職業を誤解させてしまう危険がある。

山本 雅也
(デザインジャーナリスト)

◆銀座ミニツアー／トークセッション

1997年4月10日、照明探偵団展の関連イベントとして照明探偵銀座ミニツアーが開催された。午後5時半、TEPCO銀座館に集合。まず1時間ほど面出団長より照明探偵の心得や方法の説明があり、そして銀座通りの生き字引、銀座通連合会石丸事務局長より銀座の歴史や各通りの名前の由来の説明があった。石丸事務局長の話のうまさもありかなり興味深いものとなった。

25名の参加者はイヤホンレシーバーを耳にセットし、いよいよ銀座の夜の通りに繰り出す。照明探偵団員が参加者の世話役となり、照明探偵の七つ道具を携え同行する。

TEPCO銀座館を北西にあずま通りを探偵、ギンザコアビルではビルから街路灯が生えているのを発見。所どころで石丸事務局長の生の裏話しがレシーバーから聞こえる。なかなか面白い。照明探偵団員が自動販売機と赤提灯を発見、あずま通りを外れ三原小路へ。面出団長の「銀座の表通りには自動販売機を見かけませんが」という問いに対し石丸事務局長は「特にルールを決め

た訳でもなく店主が自主的に置かない様にしている。」との事ですが江戸・銀座という一面を知らされた。晴海通りではあまりにも高額の街路灯に参加者一同、目が



銀座通り連合会石丸事務局長と面出照明探偵団団長点になる。銀座通りでは山野楽器の暴力的な量の光に憤慨し、となりのミキモトでは美しいショーウィンドウに感動した。両者の問題は光の量だけではなく光の質に起因しているようだ。アーク灯記念灯を見て、

銀座マロニエ通り、松屋通り、並木通り、晴海通りを渡りソニー通り、みゆき通り、そして先程とは違った風景の並木通り、花椿通り、を経て銀座通り、へといった約1時間半のコースでTEPCO銀座館にもどり簡単なまとめが行われた。参加者の皆さんお疲れさまでした。

4月19日(土)には「銀座のあかり再発見」と銘打ったトークセッションが同じくTEPCO銀座館で行われた。ゲストは前回ツアーの時と同じ石丸事務局長をお招きし、約120人という多数の参加者があった。第一部は前回行われた照明探偵銀座ミニツアーの報告、第二部は世界の「銀座通り」というタイトルで照明探偵団員が調査してきた世界の目抜き通りをスライド、VTRで紹介した。また休憩をはさみ第三部では銀座の夜の景色づくりを考えるディスカッションが会場の参加者を巻き込んで行われ、面白いアイデアや、ドキッとするような質問も飛び出した。

(稲葉裕・L.P.A.)

◆A.T.E.metaTOKYO Project + 照明探偵団

「銀座の夜景再発見・照明探偵ワークショップ」A.T.E.とはアートプロデュースのP3 Art and Environment、NECコーポレートデザイン部と東京大学人工物工学研究センターの三者が、アート・テクノロジー・エンバイロメント(環境)をキーワードに、幅広い異分野コラボレーションによる研究/創作活動を続けている集団。metaTOKYOProjectは、彼らがインターネットという仮想空間を利用してアーティストや建築家、哲学者などの東京に対する問題提起や未来提案を行うプロジェクトです。ホームページには一ヶ月に何万件ものアクセスがあったとか。また、現実の場でのワークショップも定期的に開催しています。

私達もかねてより彼らの一連の活動に注目していたのですが、光を切り口として一緒に東京の街を再認識するワークショップをしましょう、とお声をかけていただき、3月に銀座でワークショップが実施されました。

銀座が選定された理由は、同時期に

TEPCO銀座館で「照明探偵団」が開催されていて、照明探偵団も銀座の街づくりの提案には是非協力したいという気持ちがあり、A.T.E.の方々も、敢えて誰もが知っている銀座をもう一度視点を絞ってじっくり観察することに意味がある、と賛同してくれたからです。

当日は小雨の中を、照明探偵団+A.T.E.メンバー一般応募計50人が3班に分かれて、面出団長によるオリエンテーションの後、それぞれ「グレア(眩しさ)の状況」「各通りの街路灯」「自動販売機」という調査テーマを通して銀座の照明環境を調査しました。1時間半ほどの調査を終えて会場に戻ったあとは、各班からの報告、引き続いて活発なディスカッションが行われました。「照明デザインは個々では成り立っているが、街との関係が希薄で、全体としてのコンセプトが不在」「建設省、中央区などそれぞれの通りで管轄が違う。行政と商店街とのやりとりがなされているのか疑問」「美しいファサードもいくつか見られたが、NYのマジソンアベニュー

やバリのサンジェルマン通りなどと並び称される日本の顔であるはずの銀座には、あまりに個性や統一感がない」など、どうも銀座は、期待していたほど魅力的な光の景色をつくり出してはいないようだ、というのが、おおかたの印象でした。

(葛西玲子・L.P.A.)

照明探偵団展 会場設置ノートより

自販機の写真のコーナー、明るすぎて気持ち悪くなりました/たまたまふらっとよってみたらとても楽しいものに出会いました/穴は小さいからのぞきたくなる/みなさんが光についての思いを発見していくのが感じられたから、気を楽しみました。今日は夜も楽しく帰れそうです/楽しみながらおもしろいものを探っていくというスタンスがとても素敵です/入る前の入り口の世界と出てきた世界がちがうように思いました/照明探偵団を初めて知りました。すごくユーモアがあり、とても面白くてビックリしました/今回会場として照明探偵団の存在を初めて知りました。それだけでも十分意味があった/好きなことを探求している感じが伝わり、楽しかった/近くで見ると外灯って意外男前ですな/東京はもう少し夜そのものの色を楽しめる環境だといいたいのに/宇宙から見たら地球もとても薄暗いかもしれないけど減滅しているかもしれないと想像しました/穴の中の風景とてもおもしろかったです。最後には旅にでたくなりました

1997 照明探偵団 イベントカレンダー

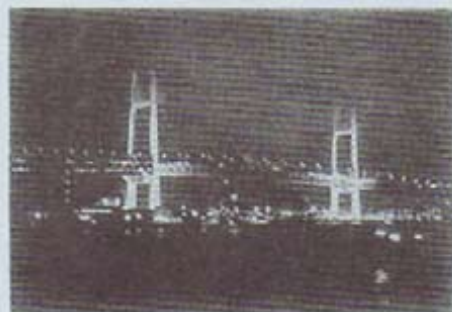
照明探偵団のイベントに関する情報は
インターネット上でも公開されています。
<http://www.lighting.co.jp/tanteidan/jtanteiframe.html>

第14回連続実践講座 + 夜景ウォッチングツアー第4回

1997年7月26日(土)

“ヨコハマ照明探偵団” 締切迫る!

照明探偵団の連続実践講座のシリーズとして、今回は優れた都市デザインと夜景づくりを実践している横浜にスポットを当て、講座+夜景ツアーの立体企画を行います。まず講座ではアーバンデザイナー・国吉直行氏(横浜市都市デザイン室)と日本唯一の夜景評論家・丸々もとお氏をお招きし、横浜の都市環境照明について、その変遷をたどります。講座の後、全員で船に乗り、水上から横浜の夜景を楽しみながら、これからのミナト・ヨコハマの照明について語り合います。最後はみなとみらい21にて下船し、オープン間もない話題のクイーンズスクエアの照明を、照明探偵団の解説付で見学します。



主催 照明探偵団
後援 ヨコハマ夜景演出事業推進協議会
協力 横浜市都市計画局都市企画部都市デザイン室
日時 1997年7月26日(土) 雨天決行
15:00開場 15:30~17:30講座
18:30~21:30夜景ウォッチングツアー

講座会場 横浜大さん橋国際客船ターミナル・A・Bホール

定員 100名(応募者多数の場合は抽選)

参加料金 4000円(乗船代+飲み物代3500円を含む)

応募方法 往復ハガキに住所・氏名(フリガナ)・電話番号(FAX番号)・年齢
職業(職種、学校/学部/学科)・探偵団員No.(登録済の方)を記入の
上、下記まで郵送

〒150 東京都渋谷区神宮前5-28-10

LPA内照明探偵団「ヨコハマ照明探偵団TT」係

応募〆切 1997年7月10日(木) 必着

問い合わせ TEL.03-5469-1022(ライティングプランナーズアソシエーツ・葛西)

※詳細については返信はがきにてご連絡致します。なお内容については予告なく変更する場合があります。

●行程

15:30~17:30 大さん橋国際客船ターミナル・A・Bホールにおいて実践講座
内容・スライドプレゼンテーション「横浜都市照明の実践」(仮)

・座談会

ゲストスピーカー: 国吉直行氏(横浜市都市デザイン室)

丸々もとお氏(夜景評論家)

照明探偵団団長: 面出 薫(照明デザイナー)

・質疑応答

17:30~18:20 大横橋→山下公園マリンシャトル乗り場に集合(各自軽食)

18:30~20:20 照明探偵団とまわる横浜水上ツアー

マリンシャトル利用=山下公園発→MM21着(ハシワロ付近)

20:30~21:30 みなとみらい21見学会

クイーンズスクエア、横浜美術館前 等

21:30 解散(全行程・約6.5時間)

パネラー・プロフィール

国吉直行 アーバンデザイナー

1971年早稲田大学建築学科大学院修士課程修了。横浜市入庁。25年間横浜市の都市デザイン行政に取り組み。著書に、「都市デザインと空間演出」(共著)「歴史的環境」(共著)「都市主導の時代」(共著)他。

丸々もとお 夜景評論家

1965年生まれ。立教大学社会学部観光学科卒業。情報誌「びあ」の編集者を経て、92年「東京夜景」上梓。以来日本でも唯一の夜景評論家として活躍している。著書「東京夜景2」アートガイド「東京美印」がある。

第2回海外照明探偵団

1997年10月24日(金)～30日(木) 5泊7日

主催/近畿日本ツーリスト

究極のアミューズメントシティ・ラスベガスの光

LDI'97の視察を兼ねて

ラスベガスとロサンゼルスツアー

砂漠の中につくられた虚構のテーマパーク都市・ラスベガス。カジノの街、というイメージが大きく変貌して、最近ではけた外れの投資により究極のエンターテイメント都市の様を呈しています。まさに今旬の街といってよいでしょう。新しい話題にこと欠くことがないこの20世紀末の不夜城を、同時期に開催される北米随一の最先端エンターテイメント見本市 LDI'97の視察も兼ねて観察します。また、流行の発信地ロサンゼルスでは、現地のデザイナーの案内でトレンドな商業施設やレストランなどを取材します。

期 間	1997年10月24日(金) - 10月30日(木) 7日間
団 長	面出 薫 (照明デザイナー/照明探偵団団長/ライティングプランナーズアソシエーツ代表)
旅行代金	¥268,000
参加定員	20名
主 催	近畿日本ツーリスト
企 画	(株)ライティングプランナーズアソシエーツ
利用予定航空会社	ユナイテッド航空
宿泊ホテル	ラスベガス/MGM グランドホテル&テーマパーク(3泊) ロサンゼルス/ホテル日航ビバリーヒルズ(2泊)
詳細問合せ	近畿日本ツーリスト TEL 03-3464-2851 FAX 03-5489-2406 担当 神庭(かんば)黒田

●視察のポイント

砂漠の中につくられた虚構のテーマパーク都市・ラスベガス。カジノの街、というイメージがここ数年で大きく変貌して、けた外れの投資により最新のテクノロジーを駆使した史上最大のエンターテイメント都市の様を呈している。昨年のシンガポール・香港のクリスマスイルミネーションウォッチングツアーに引き続いて、第2回目の照明探偵団ツアーは、最先端のエンターテイメントライティングに焦点をあててこのエキサイティングな街に繰り出す。日本を代表する照明デザイナー面出団長の引率のもと、同時期に開催される北米最大規模のエンターテイメントテクノロジーの見本市 LDI'97-Lighting Dimensions Internationalの視察、400メートルに及ぶアーケードを巨大な光と音のページェント空間に変身させた話題のフレモントストリートの制作設計を担当した米国 YESCO 社訪問など、内容の濃いツアーになっている。また、ロサンゼルスにも立ち寄り、ここでは現在活躍中の照明デザイナー Chip Israel 氏にトレンドな商業施設、照明デザイン空間を案内してもらう。

●日程

10月24日(金)	午後東京(成田)発 同日午後ラスベガス着 結団式/夕食会/ FREMONT STREET EXPERIENCE 視察
10月25日(土)	YESCO社訪問 市内視察 テーマホテル・パーク視察
10月26日(日)	LDI'97(於 Sands Expo Center)視察 市内視察 テーマホテル・パーク視察
10月27日(月)	午前ロサンゼルス着:半日市内視察(ハリウッド、ビバリーヒルズ、ウエストウッド、 センチュリーシティなど) CHIP ISRAEL 氏と夕食会 氏の案内でLAの夜景/建築照明デザインウォッチング
10月28日(火)	自由視察 反省会
10月29日(水)	午前ロサンゼルス発
10月30日(木)	午後東京(成田)着 解散



FREMONT STREET EXPERIENCE
『CASINO JOURNAL APRIL 1997』より



夜景ウォッチングツアー第5回

1997年10月4日(土)～5日(日) 1泊2日

協賛 愛知県渥美郡赤羽根町役場

秋の夜空に咲く、ライト・アース・アート

電照菊の里を訪ねる

『詳細企画中』



赤羽町・電照菊栽培のビニールハウス

昭和25年に始まり、晩夏から秋にかけて行われる電照菊栽培が、町の風物詩になっている場所が愛知県渥美半島にあります。これは、夜間に照明を点灯して日照時間を人工的に調整し、菊の開花や出荷の時期をずらすもので、夜11時になるとビニールハウスの明りが一斉に点灯し、暗闇に数百棟ものライトハウスが浮かび上がります。その光景は、まさに光の芸術。壮大な光の群れと輝きは、電照菊の里と呼ばれるここで見ることができません。秋の夜空を彩る、幻想的なライト・アース・アートを一緒に見に行きませんか。

5年前、取材のために赤羽町を訪れました。のどかな町も深夜11:00その姿は一変し、ハウスの光が一斉に灯り大都会に似た活気を帯び始めます。その光景は今まで見たことのない贅沢な光環境として感動を与えてくれるでしょう。(森秀人・L.P.A.)

ライトアップゲリラ 第2回

1997年11月4日(火)～7日(金)の夜

ライトアップゲリラ週間

ゲリラが街へやってきた

『詳細企画中』



1996 品川でのライトアップゲリラ・イベント

ゲリラが街にやってきた。日頃見慣れた街角の何気ない景色を、ライトアップゲリラ隊が不思議で美しいアートな世界に変えていきます。使用電気容量はたったの1kw。それでも、闇に沈むオブジェたちを美しく照らしてさしあげます。あなたもゲリラ隊と一緒に街を徘徊し、新しい街の景色を創りませんか。3つのグループでライトアップゲリラを行います。事前の作戦会議にていつどこで何をやるのかをロケハンし、詳細を決定します。さて、東京近郊のどここの暗闇に出没するのでしょうか。

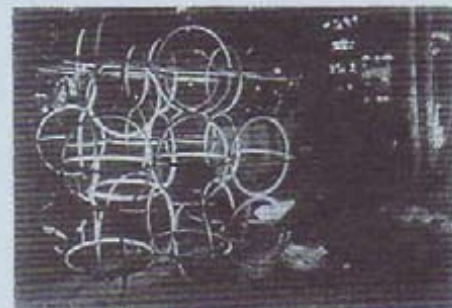
事前に行われる作戦会議であなたの奇抜な意見を聞かせて下さい。これであなたもライトアップアーティスト? (田中謙太郎・L.P.A.)

第15回照明探偵団連続実践講座

1997年11月14日(金)19時～21時

街を光でアートする

『詳細企画中』



1997 渋谷・宮下公園でのライトアップゲリラ

光が夜の顔をつくる。光は自由自在に夜の表情を演出する。いつも見慣れた何気ない場所、そして殺風景な景色も光を当てることでアートな空間に変身させることができます。

照明探偵団によるライトアップゲリラ隊は、そんなことから夜の街に出没して、闇に埋もれているあらゆるオブジェたちに光を当てては逃げ回っているのです。たくさん光を使わなくても、意外と身近なところにアートできる空間はたくさん潜んでいるはず。自分たちで街角の夜の景色をどれだけ変えられるかを、講座の前週に予定されているライトアップゲリラ週間の活動も含めて紹介します。

アートな光に溢れた夜のそぞろ歩きはどんなに楽しいことでしょうか。あなたはどのような光の景色がお好きですか? (暮西玲子・L.P.A.)

夜景ウォッチングツアー 第6回

1997年12月20日(土)

クリスマスナイトクルージング

ヘリコプターからみる東京

『詳細企画中』



ライトアップと言う言葉が聞かれるようになって夜間の都市景観は徐々に楽しさを増してきました。特にクリスマスの季節には、街全体がイルミネーションに包まれ、賑わいを見せます。今回は、普段見慣れている東京の街をクリスマスの季節にヘリコプターから一気に体験できる「クリスマスナイトクルージング」を企画しました。いつもと違った視点で、空から眺める東京のクリスマスはどんな表情をしているのでしょうか。

これまで探偵団では、バスと船による夜景ウォッチングツアーを開催しました。今回は視点を立ててヘリコプターで東京の夜景を鑑賞します。(原ルミ・L.P.A.)

照明探偵団ホームページ

<http://www.lighting.co.jp/tanteidan/jtanteiframe.html>

探偵団のホームページは昨年の9月に試験的に開設されました。そして今年の2月にlighting.co.jpのドメイン名を取得し、本格的に運用を開始しています。96年中に行われた各種イベントや



連続講座の様子は建築雑誌「SD」連載ほか、多くの新聞・雑誌で紹介されていましたが、ホームページにはさらに詳しいレポートや写真が掲載されています。また今年の3～4月に東京・TEPCO銀座館で行われた展示会もレビューされています。現在、ホームページの主目的は、実践活動である探偵団の行



動を記録保存し、広く皆様にご覧いただくことですが、探偵団倶楽部の結成を機に団員の方々の意見交換や情報発信の場を育てていきたいと考えています。

インターネット上には、ありとあ

らゆる文化・風俗があります。しかし、まだまだ照明に関する情報は多いとは言えません。倶楽部への入会と併にあなたもネット上の照明文化づくりに参加してみませんか。

(澤田隆一・L.P.A.)

海外照明探偵団 ランドスケープデザイン

照明探偵団の行動範囲は国内だけではなく、海外にも広がっています。所代われば品代わるで都市の歴史や文化の違いで光環境も全く異なる表情を見せています。

世界の都市照明について仮説を立て検証するといった活動を94年から続けて3年目に入りました。訪れた都市も10箇所以上ののぼり益々活き盛んです。そんな活動の内容を季刊誌「ランドスケープデザイン」(マルモ出版)に「照明探偵団・世界の都市照明」として連載しています。リヨン、ロンドン、バルセロナ、シカゴ、ベルリン、パリ、ヴェネツィア、北欧と連載は8回目を迎え、次回9号は中欧チェコの首都「プラハ」です。中世の街並みが色濃く残る古都の光は探偵団に何を訴えかけてくるのでしょうか乞うご期待。発売は8月中旬予定。あなたも、世界の照明探偵に参加してみましょう。(中村達基・L.P.A.)

照明探偵団 日記

1997年5月1日(木)
渋谷の宮下公園およびその周辺において、ライトアップゲリラ作戦を実行。場所は入念な暗闇のロケハンの結果、探偵団本部にほど近い宮下公園に決定。探偵団員5名にたけし軍団のラッシャー板前氏ほか主婦5名が加わり即席合同ゲリラ部隊を編成した。ロケバス1台で移動しながらハンディーな武器を手に(蛇口75W+ライト、電球+ソケット、蛍光灯17W、カーフィルタ、1800V100Vなど)ジャングルジムやトンネル、銭湯の煙突などをすばやくライトアップした。
その模様は6月13日、テレビ東京の7Tバラティ番組「たけしのだれでもピカソ」に放映され、面出団長と東海林団員がスタジオ出演、照明探偵団の活動を説明した。たけしの「富士山をライトアップしたらおもしろい」発言には探偵団一同もビックリした。探偵団アート活動の今後に乞御期待。(木下史青・L.P.A.)

編集後記

突然に照明探偵団通信00号をお届けしましたが、いかがでしたか。興味を持っていただけたでしょうか。探偵団の活動の本質は「街にでること」ですが、これを機会にぜひ照明探偵団倶楽部にご入会いただき、リアルな探偵団活動に加わっていただくことをお薦めします。その実際の探偵団活動をまとめ、次の課題を生み出していくのがこの機関誌の使命と考えます。今後は年2回のスローペースですが、実際の探偵団活動と並行して、より充実した内容で発行していくつもりです。そのために皆様の意見をどしどしお寄せ下さるようお願い申し上げます。随時特集号などもどんどん企画していくつもりです。今後ともよろしく。

(木下・編集部)

【照明探偵団の活動は以下の22社にご協賛いただいております。】

ルートロンアスカ株式会社 岩崎電気株式会社 松下電工株式会社 三菱電機照明株式会社 東芝ライテック株式会社 小糸工業株式会社 三菱レイヨン株式会社 ヤマギワ株式会社 山田照明株式会社
小泉産業株式会社 ヨシモトボール株式会社 ニッポ電機株式会社 湘南工作器具株式会社 株式会社エルコ・トートー 日本電池株式会社 株式会社クワンスペース 金門電気株式会社
株式会社アイビップ 大光電機株式会社 日本フィリップス株式会社 株式会社遠藤照明 株式会社バリライトアジア